

第3回 苫小牧市都市計画マスタープラン改定検討委員会

議事録要旨

【日 時】 平成 29 年 8 月 24 日（木）10:00～12:00

【場 所】 苫小牧市民活動センター 3階 講習室

1 開会

2 挨拶

- ・ 小名まちづくり推進室長挨拶

3 議事

(1) 地域別構想について

【事務局から説明（資料1・2）】

【宮本委員】

- ・ 苫小牧市には、企業が多く立地しているが、大企業であれば、効率化による従業員の減や世界戦略に負けた場合の撤退など、不安定なものを抱えている。
- ・ 昔の苫小牧のまちづくりは、人口 35 万人ぐらいを想定してつくったが、広げすぎた風呂敷をどう縮めていくのが非常に難しい。
- ・ 中央部西地域については、弥生町・大成町の高層公営住宅をどうするのか、具体的にしていけないと本当の意味でのマスタープランにならないのではないかと。
- ・ 絵に描いた構想ではなく、地に着いたものにするためには、具体的なビジョンを示すべき。
- ・ メンテナンスをしっかりとやらないと、きれいなまちにはなっていない。きれいなまち、いいまちにしようと思うと、メンテナンスに金がかかるということを認識しなければならない。

【事務局】

- ・ 都市計画マスタープランは、苫小牧のまちづくりの計画の中で上位に位置しているので、今後、このマスタープランに即した形で色々な政策課題や事業に取り組んでいくことによって、今掲げている基本的な方針が実現化に向かっていくと考える。
- ・ 将来、人口が減少する中で少しずつ市街地規模の適正化を行っていく必要があると考えている。
- ・

【田村委員長】

- ・ 今回示された案は、立地適正化をかなり意識して、生活拠点を含めた交通ネットワークのことも、あえて国の計画を呼び込まなくても十分対応できるものと感じている。
- ・ 大成町の公営住宅や駅前の再開発については、マスタープランには方向性を位置付けておき、事業については、様々な手法のなかで、民間の力を借りながら力業でやっていく必要があると思う。

【丹羽委員】

- ・ 東西に 40 km と長い市街地であることがネックとなるため、5 年以内には美沢錦岡通を是非整備していただきたい。
- ・ 東部西地域の跨線橋は間隔が長いため、交通が集中し非常に混雑している。港の活性化も含めて、鉄道南北のアクセス道路をもう一本実現してもらいたい。

【柳谷委員】

- ・ 全体的には、やや夢がないと感じる。実現可能性のある夢というものを若い世代に感じ取ってもらえることが必要だと思う。
- ・ 今後、まちづくりをしていくなかで、空き家対策をどのようにクリアするのが問題になってくる。
- ・ 若い人を呼び込むためにどうすれば良いか、その視点が欠けていると感じる。
- ・ デマンドバスだけでなく、都市拠点や生活拠点間を結ぶバスのシャトル化も必要ではないかと思う。
- ・ 苫東地域に企業立地、企業集積させるにしても、まだ全体の 2 割程度しか土地利用されていない現状を考えると、当分の間、運動公園のようなものがあった方がいいのでは。
- ・ 津波対策だけでなく、豪雨対策もマスタープランの中で考えるべきではないか。

【田村委員長】

- ・ マスタープランに位置付けるべきかは別として、苫小牧市民がみんなで作るまちだという自意識を高める必要がある。

【内海委員】

- ・ 地域別構想としては非常に良いと思ったが、個性を明確にしすぎて市全体としてまとまったマスタープランになるのかが気になった。
- ・ 市民アンケートで、趣味や娯楽を楽しむために市外に行くと回答があったが、それを市内に呼び戻す必要がある。趣味や娯楽を市内で楽しむことができれば生活が豊かになる一助になるのではないか。

【田村委員長】

- ・ 趣味や娯楽は大事である。「モノからコトへ」というぐらい、モノを作ってなんぼの時代から、今は活動の時代であると思う。

【下夕村委員】

- ・ 高度経済成長時代は夢のある生活と言えたかもしれないが、今の若者の生活を考えると、彼らが生活の中で夢を感じることは難しいと思う。
- ・ 西側の住宅地は、高齢化による空き家の増加や、小学校が統合するなど子供が減少しているため、いかにして再生していくのが課題である。いかに若い世代に住み替えてもらう具体策を考えなければ厳しい。
- ・ 東側は現在人口が増加しているが、30 年、40 年たったときに今度は東側が西側と同じことになる。そのため、どのようにつなげて、循環させ、まちを維持するかが重要である。
- ・ 35 万人の人口規模を想定した区域を変更せず、そのまま来てしまったツケが出てきている。

- ・大都市における再開発はうまくいく場合もあるが、地方の駅前再開発はほとんどがうまくいっていない。
- ・交通軸については、東部西地域の国道36号と明野北通りの関係を整理しなければならないと思う。

【宮本委員】

- ・夢のあるという視点は重要だと思う。また、「きれいなまち」というスローガンを全面に出すことも良いのではないか。
- ・スポーツの誘致活動のためには、受け皿となるホテル、旅館をもっと立地させるべき。
- ・子育て後の生活にも焦点を当てた計画があってもいいのではないか。
- ・行政と商工会議所が協力しながら、まちの再生のために動いていく必要がある。
- ・西側の住宅地の再生のためには、税制措置など具体的な誘導策を考えなければならない。

【丹羽委員】

- ・血管である道路網を整備しなければ、西側に住むことは難しいと思う。
- ・余分な公共施設を作らない、既存施設の活用や集約化も重要である。
- ・植苗地区のデマンドバスは玄関先まで迎えに来るから評判が良い。
- ・路線バスは今後、経営が厳しくなることが危惧されるため、路線バスはシャトルでも良いので幹線だけ運行し、拠点周辺は循環バスやデマンドバスなどを活用すべき。

【下夕村委員】

- ・苫小牧では、色々なイベントが行われている。イベントでは、人がまちの外から集まってくるので、まちづくりにも活かせると思う。
- ・たくさんのイベントを組み合わせるとおもしろいと思うが、行政で作るわけにはいかないので、民間を後押しできる流れをつくることも重要ではないか。

【田村委員長】

- ・本日の委員会で、地域別構想の案を承認頂けると、これから地域に入って町内会も含めて具体的な地域の意見をもらってくる懇談会へ進むことになる。
- ・「夢」、「きれいなまち」など大きな話から、道路や施設など具体的な話もあったが、この時点において、示された地域別構想の案で了解したとし、地域の声を吸い上げる段階まで進むこととする。

4 その他

【事務局から次回委員会について連絡】

5 閉会